NO. 13

模造紙に大きな絵を描こう

講師／緒方　紀子　（美術家）

テーマ

○コラージュ（雑誌・チラシ等の写真の切りぬきや、新聞紙やダンボールを貼る）を体験
○いつもの「描く」ことでの絵の制作に「貼る」という作業を加えることで、あらたな絵の魅力の発見

実施回数	1 回		2h ／回	ジャンル	美術		
プログラムの目的	社会性を養う	創造性・感性を豊かにする	視野を広げる	心を解放する	人間関係を豊かにする	講　師	1 人
		○	○	○		サポーター	3 人

子　ど　も　の　声

○おもしろいしゃしんがたくさんあった。（小 2　女子）
○こんなハンバーガーが食べたかったから、食べているところを作ってみた。（小 3　男子）
○むかしのせかいを作ってみて、たのしかった。（小 3　男子）
○じどうしゃがすきだから、いっぱいじどうしゃをはった。（小 1　男子）

プログラムプロセス

STEP 1　鑑賞

コラージュの作品や不思議世界を描いたダリ（シュルレアリズム）などの作品を鑑賞。

STEP 2　宝さがし

チラシの広告や新聞などの中から、おもしろ写真やイラストを探す。

STEP 3　創作

探した写真を A3 サイズの画用紙にコラージュして作品をつくる。

STEP 4　チャレンジ

小さい作品を作成し、次に模造紙の半分の大きさのコラージュ作品をつくる。

実施の様子

事前に準備をしておいた折り込みチラシやフリーペーパー、読まなくなった雑誌、そして公園で拾ってきた落葉などの中から子どもたちは、おもしろそうな写真やイラストを自分で集め、それぞれの画用紙または模造紙の画面の中にストーリーを作りあげていきました。

車の広告写真を集めて車の世界や埴輪や土の船などで古代の世界を表現する子どもや、違う写真を組み合わせておいしそうなハンバーガーにかぶりつく人を描く子どもなど、それぞれ自分の世界を作品に表していました。子どもたちの中には、家から持ってきた写真を切り抜いて貼るなどの工夫も見られ、雑誌やチラシの写真を貼って組み合わせることで「描く」だけの制作にくらべてストーリー性豊かな作品ができあがりました。

残念だったのは、保護者が「この色は合わない。」などと言って、子どもの作品に口を出し、子どもが好きなように制作できない場面もありました。

また、２時間でコラージュのおもしろさを見つけ作品を仕上げるには、時間の配分やプログラム組みをもう少し考えなければならないとも感じました。

講師プロフィール

■緒方　紀子　（おがた　のりこ）

女子美術大学 洋画科油絵卒業。毎年『ギャラリーほりかわ』（神戸）でグループ展開催。現在、自宅にて絵画教室を開いて幼稚園～中学生を対象に、水彩・工作・コラージュ・ポスターなどの指導をしている。

NO. 14

木の博士入門

講師／井上　龍一（家具職人）

テーマ

〇五感を使い、木の特徴を感じる
〇木の役割を多方面から理解し、木の大切さや、木と人とのつながりを知る
〇家具職人の技術を伝える

実施回数	2 回		2h ／回	ジャンル	環境		
プログラムの目的	社会性を養う	創造性・感性を豊かにする	視野を広げる	心を解放する	人間関係を豊かにする	講　師	1 人
		○	○	○		サポーター	3 人

子　ど　も　の　声

〇木について、いっぱい知った。（小 3　男子）
〇木を切ったり、ボンドをつけるところが楽しかった。（小 2　女子）
〇手作りイスを作ったところが楽しかった。（小 2　女子）
〇初めてかんながけを教えてもらったのが楽しかった。（小 2　女子）
〇イス、おとなになってもだいじにする。（小 2　女子）

プログラムプロセス

STEP 1　クイズ

葉の形やにおいで、木の名前をあてるクイズをする。木目や重さを比べ、五感を使って木を感じる。

STEP 2　散策

松林の中を散策し、身近にある木を見たり、名前を調べるために葉を採取し、木の年輪も数える。

STEP 3　職人さん

「かんながけ」に挑戦。スギ、クス、ヒノキの三種類の板を「かんながけ」し、それぞれの感触を体感。

STEP 4　仕口

丈夫に作るために、釘を使わず「仕口」という技で木をつないでいくことを実際にイスを作りながら学ぶ。

実施の様子

この講座は、「木」を多方面から感じ、知ることを目的とした講座でした。

第１回目は、五感を使って木の違いを感じそれぞれの特徴を学びました。実施場所周辺や近くの松林をゆっくり散策しながら身近な木に目を向け、木の芽をみつけたり、葉っぱを採取して散策後に図鑑などで調べました。散策の途中で、輪切りにした木と同じ木の前で年輪を数え目の前に立っている木がどれだけ生きてきて、どれだけの時間がかかっているかを感じました。

第２回目は、講師の本業である家具作りを体験することで、命あるものを私達は家具として使っていることを感じてもらいました。最初にスギ、ヒノキ、クスの三種類をかんなで削り、それぞれの木の「色」「におい」「削れる感触」を体感しました。次に、木にも貴重な命があり、その命を無駄にしないように丈夫に作り、長く使うための一つの技として、釘を使わず木をつなげる「仕口」の方法をイスを作りながら学びました。

子どもたちは、初めてのかんながけや「世界でひとつだけのイス」を作ろうと熱心に作っていました。

講師コメント：

・自然にふれあうことで、人間と自然の関係や自然の必要性を考えてもらう機会になった。作る物が残るので、今はわからなくても後で思い出となり、物づくりの楽しみを感じてもらうことができると思う。

・子ども達は、初めてのことだけれど、自己主張しながら、デザインを考え夢中になって作っていた。

講師プロフィール

■井上　龍一　（いのうえ　りゅういち）

１９６４年福岡県出身。稲本正が主宰する家具工房「オークビレッジ」の森林たくみ塾にて木工を学ぶ。１９９９年宮崎に移住し、作家活動に取り組んでいる。２００１年工芸作家展にて市長賞南風人館　「第６回椅子＆卓展」（隼人町・鹿児島県）にて入賞。

NO.15 アンブレラ・あんぶれら・傘に絵を描く

講師／上口　将生（彫刻家）

テーマ

○まちを歩いて自分のお気に入りの場所をさがす
○傘を広げて、描きたい構図を決める
○活動をとおしてまちの新たな発見や周りの音などにも意識しながら、その時の雰囲気も描きこめるような作品制作をする

実施回数	1 回		2h ／回	ジャンル	美術		
プログラムの目的	社会性を養う	創造性・感性を豊かにする	視野を広げる	心を解放する	人間関係を豊かにする	講　師	1 人
		○	○	○		サポーター	6 人

子　ど　も　の　声

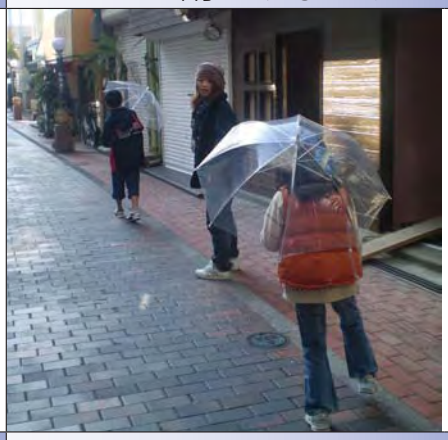
○かさにえをかくのはむずかしい。（小１　女子）
○いろんなたて物があって、かいておもしろい。（小４　男子）
○まちの中で絵がかけて楽しい。（小２　女子）
○ねこが動いてかきづらかった。（小４　女子）

プログラムプロセス

STEP 1　あんぶれら？　傘？？

講師から自己紹介とこれから行う活動の説明。

STEP 2　雨じゃないけど？



ビニール傘を持ってまちに出て、描きたいまちの風景を探す。

STEP 3　キャンバス

描きたいまちの風景が決まったら、ビニール傘にマジックでその風景を写し取る。

STEP 4　どんな風景？

作品完成後、傘に描いた日時とサインを記入。
制作を振り返る。

実施の様子

晴れているのに傘をさして、まちを歩きまわる非日常的な雰囲気が子どもたちをワクワクさせたのか、とても楽しんでいました。子どもたちは、それぞれ“まちの風景”を見つけたあと制作にとりかかりました。傘を風景に向けたまま傘の内側から“まちの風景”描くということが、難しかった子どもたちもおり、地面に置いて描いていました。

また、子どもたちの中には一ヶ所の風景を切り取るというよりは、自分のすきなまちの風景を集めて描いたオリジナルの「まちの風景の傘」を作成した子どももいました。もっと時間があれば、もっとおもしろい作品になりそうでしたが子どもたちの集中力が限界だったように感じました。

講師コメント：
・「絵を描く＝画用紙」「絵を描く＝上手下手」という描き手も見る側も固定観念をすてる。
・より自由に、より楽しく、より手軽にと思い素材設定しました。
・描くことより、まちなかという空間でウロウロすることを楽しんでいる様に思えました。「まちなか＝買い物」ではない活動が楽しかったのかと思いますが、それが大事かと思いました。
・あと１時間くらい時間があればいいとも思いましたが、子ども達の集中力がギリギリでしょうか

講師プロフィール

■上口　将生（かみぐち　まさお）

１９７４年大阪府生まれ。１９９５～９９年グループ展「WOOD WORKS 遊木」（佐賀県）で企画、出展。１９９７、９９年「新制作協会展（スペースデザイン部）」（東京）に出品。１９９９年佐賀大学大学院修了。個展（佐賀新聞ギャラリー）を開催。２００１年～ グループ展「ヤギノ会」に出品。２００３年～「宮崎国際現代彫刻　空港展」に出品。２００７年「ふたりのひとりごと展」開催。

NO. 16

等身大の自分を作ってみよう！

講師／緒方　紀子（美術家）

テーマ

〇等身大の絵に布やスポンジなどを貼り、新たな自分と出会う
〇自由な絵の制作を体験する
〇おもいっきり大きく描くことを体験する

実施回数	1 回		2h ／回	ジャンル	美術		
プログラムの目的	社会性を養う	創造性・感性を豊かにする	視野を広げる	心を解放する	人間関係を豊かにする	講　師	1 人
		○	○	○		サポーター	3 人

子　ど　も　の　声

〇自分の絵がほめられて、うれしかった。（小 5　女子）
〇ポーズをとったからだをかいたのがたのしかった。（小 1　女子）
〇ポーズをとるのがむずかしい。（小 2　女子）
〇水えいのポーズをとった。いろんなものをはって楽しかった。（小 3　男子）

プログラムプロセス

STEP 1　等身大

講師からこれから始まる制作について話を聞く。

STEP 2　ポーズ

子どもたちの背丈ほどある模造紙の上ですきなポーズをとる。ポーズが決まったら、講師または保護者にペンや鉛筆で紙に体をかたどってもらう。

STEP 3　装飾

模造紙にかたどられた体に、鉛筆、ペン、えのぐ、スタンプなどのいろんな画材を使い色をぬり、色紙、セロハン紙、広告の写真、布、綿などを貼り自由に制作。

STEP 4　完成

他の参加者の作品を鑑賞。

実施の様子

等身大の自分から新しい自分を描いてみる体験は、思いもよらず大変な作業でした。

大きく描くことになれていないことやポーズを決めるときには、「はずかしい」と言って、なかなかポーズをとることができない子どもやどのポーズにするか決めるのに長く悩んでいる子どももいて、イメージしにくいようでした。

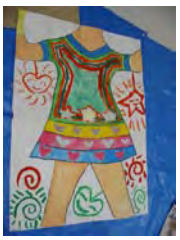
ポーズが決まり本格的な制作に取りかかると、子どもたちはそれぞれ思いのまま、すきなように色を塗ったり、材料を切って貼ったりと作品制作に熱中していました。できあがった作品はそれぞれ個性豊かで、それぞれやりたいことをやった感がありました。

等身大の自分を描いてみることで、また作品を会場にしばらくの間、「キッズギャラリー」として展示し祖父母たちと自分の作品を見ることで、子どもたちは「新しい自分」「なってみたい自分」への想いをつのらせるきっかけになったようです。

講師プロフィール

■緒方　紀子　（おがた　のりこ）

女子美術大学 洋画科油絵卒業。毎年『ギャラリーほりかわ』（神戸）でグループ展開催。現在、自宅にて絵画教室を開いて幼稚園～中学生を対象に、水彩・工作・コラージュ・ポスターなどの指導をしている。



NO. 17 津軽三味線　～心で感じよう、日本の音～

講師／村上　三絃道（津軽三味線）

テーマ

○「津軽三味線」との出会い
○まったく初めて、あるいはほとんど触れたことのない「三味線」との出会いで子どもたちの感性を刺激する

実施回数	2 回		2h／回	ジャンル	音楽		
プログラムの目的	社会性を養う	創造性・感性を豊かにする	視野を広げる	心を解放する	人間関係を豊かにする	講　師	3 人
		○	○	○		サポーター	3 人

子　ど　も　の　声

○つがるじゃみせんはすごくおもかったです。（小２　女子）
○とてもたのしかった。（小４　男子）
○三味線を教えてもらえてとても良かったです。（中２　男子）
○むずかしかったけど楽しかった。（小２　女子）
○しゃみせんがたのしかった。（小１　男子）

プログラムプロセス

STEP 1　ソーラン節に挑戦

各部位の名称、三味線の音（ドン、トン、テン）を聞き、ソーラン節の演奏に挑戦。

STEP 2　凧上げの曲に挑戦

ソーラン節を全員弾けるようになり、二曲目の凧上げの曲に挑戦。

STEP 3　一人一人演奏発表

凧上げの曲も弾けるようになり、子どもたちが一人一人演奏を発表。

STEP 4　津軽三味線の音色

最後に講師と弟子の３人で津軽三味線の演奏を披露。

実施の様子

津軽三味線にふれることが、単に弾くことだけではなく礼儀や姿勢も学ぶ場になりました。

津軽三味線を持った子どもたちの中には、三味線と同じくらいの背丈の子どもも参加していました。子どもたちは、手本の演奏の時はしっかり講師の手元をみつめていました。覚えも早く、２曲の演奏にも挑戦しました。また、２グループに分かれて行った三味線の体験では、１グループが演奏している時は他の人の演奏を真剣に見ている子どもや自分が弾いているイメージをしている子どももおり、三味線の魅力に引き込まれていました。

また、家元による津軽三味線についてのお話しやお弟子さんと一緒に３人での演奏もあり、本物の楽器にたっぷりふれることができたことで次への意欲へとつながり、本格的に習い始めた子どももいました。

講師プロフィール

■村上三絃道　（むらかみ　さんげんどう）
村上由哲（二代目）（むらかみ　よしのり）・村上華映（むらかみ　かえい）・村上松美和（むらかみ　まつみわ）

初代家元村上由哲氏により１９７２年に設立。津軽三味線の演奏と歌唱の指導にあたるかたわら、国内はもとより海外での公演も行い反響と感動を呼んでいる。小・中・高校生への鑑賞教室の開催など、幅広い活動を展開。

NO. 18

飛び出す絵本を作ろう

講師／後藤　麻夫（立体造型作家）

テーマ

〇平面である紙ページを開くと立体的に飛び出してくる楽しさ、おもしろさを知る
〇絵が飛び出すしくみを学び、実際に作る体験の中から工作の楽しさを体験してもらう

実施回数	1 回		2h ／回	ジャンル	美術		
プログラムの目的	社会性を養う	創造性・感性を豊かにする	視野を広げる	心を解放する	人間関係を豊かにする	講　師	1 人
		○	○	○		サポーター	3 人

子　ど　も　の　声

〇でてくるものの理ゆうがわかった。（小 2　男子）
〇つくるのが楽しかった。（小 1　女子）
〇えとかぬるのがたのしかった。（小 1　女子）
〇チョウチョを作ってたのしかった。（小 4　女子）

プログラムプロセス

STEP 1　主人公は？

飛び出す部分の型紙に思い思いに色を塗る。

STEP 2　切り出す

色を塗った型紙をはさみで切る。

STEP 3　折りたたまれる

造る形にもよるが、切れ目を入れたり、山折りや谷折りをするなど絵が飛び出てくるように形を整える。

STEP 4　出現

台紙（本）に絵を描いて、飛び出てくるパーツを貼って完成。

実施の様子

参加者の多くは、小学校低学年で絵本を家でも読んでもらっているという子どもたちや実際に飛び出す絵本を持っているという子どももいました。

低学年のため、絵本の飛び出す理屈が分かるのかと心配ではありましたが実際に作っていく段階を最初に見せて、なぜ本に挟まっている紙の絵が起き上がってくるのかをパーツを見せながら段階を踏んで見せていったので、理屈が分かった子どもも多く２つ３つと飛び出すページを作り絵本にしていきました。

講師と相談し型紙を用意していたこともあり、子どもたちはすんなり制作へと入っていけたように感じます。型紙を使って作るのではなく、自分が考えてオリジナルのものを作りたいと一生懸命デザインを考える子どもたちも何人かいました。台紙（本）の色や背景をそれぞれが描くことで同じ型紙でも一人一人違うオリジナルの飛び出す絵本ができていました。

文章が書かれていない絵本ですが、となりの子どもに口頭で自分の作った飛び出す絵本を見せながら物語を話している子どももいました。

講師コメント：・低学年が多かったので、難しいことはできなかったが、みんなとても楽しそうに作っていた。

講師プロフィール

■後藤　麻夫　（ごとう　あさお）

日大芸術学部映画学科卒業。１９９０年に渡米。その後７年間ハリウッドの大小様々な映画作りに参加。帰郷後、宮崎県綾町に自宅兼工房を開設。フリーの立体造型作家として活躍中。２００７年より宮崎市田野児童センター館長に就任。

NO. 19

アナウンサーになろう！

講師／細田　史雄　（NHK 宮崎放送局アナウンサー）

テーマ

○スタジオでのアナウンサー体験をとおして、テレビ放送について学ぶ
○声、表情、姿勢など人に向けて“はなし”を伝えることを体験する

実施回数	1 回		2h ／回	ジャンル	メディア		
プログラムの目的	社会性を養う	創造性・感性を豊かにする	視野を広げる	心を解放する	人間関係を豊かにする	講　師	1 人
	○	○	○	○	○	サポーター	3 人

子　ど　も　の　声

○アナウンサーのことがすごくわかった！（小２　女子）
○テレビの人は、アナウンサーだけだと思ったけど、いろんな人がいるなと思った。（小１　男子）
○はじめてスタジオに入ってすごかった。（小２　女子）
○アナウンサーになりたい。（小２　女子）
○たのしかったです。またいきたいと思いました。（小２　女子）

プログラムプロセス

STEP 1　テレビの向こう側

ニュースができるまではいろんな工程、たくさんの人（アナウンサー、記者、カメラマン、技術者、ディレクター、編集者など）がかかわりできている。

STEP 2　ニュース原稿

実際に自分が読むニュース原稿を書いてみる。

STEP 3　スタジオで…

スタジオでアナウンサー、カメラマン、ディレクターの三役をそれぞれ体験。

STEP 4　みんなのニュース

自分達で録画したニュース放送をみんなで鑑賞。

実施の様子

「普段、テレビで一方的に見ている人が自分の目の前にいる」「でもテレビの人とちょっと違うようにも見える」そんな不思議さからこの講座はスタートしました。講師が話しだすと、聞き覚えのある声と顔が一致したようで、子どもたちからも「あっ、知ってる！」という声が聞かれました。

子どもたちは、アナウンサーの仕事についてや自分達が普段見ているテレビのニュースがどのように作られるのかを教えてもらいました。そして、実際に自分達がアナウンサーとして体験するためにまず自分が読む原稿作りからスタートしました。原稿を書くのに悩む子どももいましたが、全員書くことができました。

次にスタジオに入ると最初は興奮していましたが、録画が始まるとぞれぞれ原稿を読む順番が来るのを緊張した面持ちで待っていました。

最後に、全員のアナウンサーの様子を撮影したビデオを見ましたが、自分がテレビの中に現れるととてもはずかしそうにみていたり、上着を顔で被っている子どももいました。

子どもたちにとっては、すべてが初めてのことのようで、少しドキドキする体験だったように見えました。

講師プロフィール

■細田　史雄　（ほそだ　ふみお）

東京都出身。ダイビングとホラー・ＳＦ映画鑑賞が趣味のＮＨＫ宮崎放送局のアナウンサー。宮崎に赴任して４年目。ＮＨＫでは、業務管理、ニュース、特番などを担当。

NO.20

緑のアート・盆栽

講師／野元　大作　（盆栽家）

テーマ

〇盆栽という手法をもちいて、小さな景色（世界）をつくる
〇盆栽は、「生きもの」「変化する」ということを知る

実施回数	1 回		2h ／回	ジャンル	園芸		
プログラムの目的	社会性を養う	創造性・感性を豊かにする	視野を広げる	心を解放する	人間関係を豊かにする	講　師	1 人
		○	○	○		サポーター	3 人

子　ど　も　の　声

〇むずかしかったけどたのしかった。（小 1　女子）
〇いろいろなしょくぶつのことが良くわかった。（小 5　男子）
〇つくれるとわおもわなかったけどつくれました。たのしくてすこしもむずかしくなかったです。（小 2　男子）
〇ぼんさいはかんたんそうだったけど、むずかしかったです。（小 2　男子）
〇かわいくできた。（小 3　女子）
〇楽しかったし、ためになった（なんでも）（小 6　女子）

プログラムプロセス

STEP 1　盆栽？

盆栽とはどういうものかを知る。

STEP 2　使うもの

盆栽作りに向けて、道具や今回使う植物を知る。

STEP 3　景色を創る

実際に樹木を植え、苔を張り、盆栽作りを行う。

STEP 4　生きもの

盆栽は生きているもの。それを育てていくために必要なこと、手入れを学ぶ。

実施の様子

小さな器の中にイメージをふくらまし、自分の庭を作ることに初めはとまどっていた子どもたちでした。しかし、講師は若く、「木の命」についての話は丁寧で、木々に愛情をそそいでいる様子がうかがわれ、体験開始から子どもたちは実によく講師の話を聞いていました。

今回、植えた木や植物の名前をメモしたり、植える時もひとつひとつ丁寧に扱っていました。この姿勢は、最後まで変わらず、終わりに講師が「盆栽は生きている。水をあげたり、食物（肥料）やお日さまにあててあげないと死んでしまう。」ことなどを熱心に聞いていました。

「自分だけの盆栽」が完成した時の子どもたちの満足そうな顔は印象的でした。この体験で子どもたちは、とても新鮮で新しい形のガーデニングのように盆栽を感じているように見えました。

講師プロフィール

■野元　大作　（のもと　だいさく）

２００４年に独立し清武町に「野元珍松園」を開店。「南風会」を立ち上げ、指導にあたる。現在、月刊誌「じゅぴあ」に「四季をかなでる盆栽」を連載中。

NO.21

火で絵を描こう！

講師／黒木　郁朝（版画家）

テーマ

〇原初的なアート体験としての火を経験すること
〇現存しない大きなもの（恐竜）を想像すること

実施回数	1 回		2h ／回	ジャンル	美術		
プログラムの目的	社会性を養う	創造性・感性を豊かにする	視野を広げる	心を解放する	人間関係を豊かにする	講　師	1 人
		〇	〇	〇	〇	サポーター	4 人

子　ど　も　の　声

〇火でえをかいたのがたのしかったです。（小１　男子）
〇こんな体験はあんまり参加しない方だけど、今日の体験をしてまたこうゆうのに参加したいと思うようになりました。また、このような体験があったら、ぜひ参加したいです。楽しかったです。（小６　女子）
〇マッチで火をつけるのがこわかった。（小２　女子）

プログラムプロセス

STEP 1　絵を描こう！

思い思いに砂浜に絵を描く。

STEP 2　装飾

巨大な恐竜に思い思いに装飾（背びれ、爪、模様）などを描き加えていく。

STEP 3　点火

巨大な恐竜の輪郭に沿ってマッチでたいまつに火をつける。

STEP 4　炎のアート

火で浮かび上がった巨大な恐竜（作品）。

実施の様子

「水」、「空気」と同じくくらい人間が生きるのに必要な「火」、「火」によって人間の生活は、目覚しく変化しました。そんな力を持っている火の熱さ、強さ、明るさをアートという視点から体験するために参加者は、実施の時間になると広い浜辺、大きな海を目の前に何がこれから始まるのかワクワクしている顔や不安げな顔で集まってきました。

最初は、砂浜に思い思いに絵を描いて砂浜というキャンバスの大きさを感じていました。次に、みんなで大きな恐竜に分担して模様をつけ、最後にはみんなで描いた恐竜の輪郭にたいまつでマッチで灯もしていきました。この頃には、不安げだった表情の子どもも「次は何するの？どうするの？」と積極的に参加するようになっていました。マッチを擦った経験がない子どもも何人かいましたが、おとなの手を借りながら上手に火を灯していました。そして、暗闇に大きく浮かび上がった１頭の（オリジナル）恐竜を見ながら、それぞれが体験したことのない世界（恐竜の時代）を想像していました。

『原初的なアート体験として「火」を経験すること』それは、アート（想像または創造）への一歩を踏み出すことでもあり、人が進化の中でたどって来た道を一瞬にしてさかのぼり、振り返らせてくれることを参加者は感じているようでした。

講師コメント：

・火にふれてイキイキ（興奮気味）している子どもの様子がよかった。

・もう少し準備をして火を使うインスタレーションをやってみたいと想った。

講師プロフィール

■黒木　郁朝　（くろぎ　いくとも）

版画家であり、木城えほんの郷の村長を務める。約２０年前に木城町に移り住み、国内外で個展を開いている。

講師アンケート　より

土田　浩　（音楽家）

いわゆる、知育（確かな学力）、徳育（豊かな心）、体育（健やかな体）といわれるが、アート（芸術）は何か？もちろん、徳育（豊かな心）のなかに入ります。そもそも３つの柱のように言われていますが、現実は、知育が中心であとはあれば良いぐらいになっています。（学校のカリキュラムを見れば明らか！）

しかし、本来、人にとってアートは食や睡眠などと同じように、人が成長（形成）されるのに最も必要なものです。特に音楽については、脳学者の茂木さんは「人が音楽を聴いたときの脳の状態は、食べたり飲んだりした時のそれと非常に近いことがわかっている。音楽から得られる喜びは、生物として基本的、本能的な喜びの回路と共通している。」と述べています。つまり、音楽体験は生命原理に近いものであり、音楽は、人が生きていくために必要な空気や水のようなものなのです。そして、これは他のアートについても同じことが言えると思います。

それでは、いかに子どもたちにアート体験をさせるかですが、「とにかくたくさんの機会を与えてあげること」これは、現代の社会では、親を含めた周りの大人が作ってあげることが必要でしょう。そして、少しでも興味を示したことには、次の機会を与えてあげること、しかし、なかには、最初まったく興味を示さなかったことにも、回を重ねることで興味を持ち出す子もいるので注意しなくてはいけません。ここで、最も大切なことは、大人がすぐに成果を求めようとしないことです。絵が上手に描けるようになる、演奏が上手に出来るようになることが目的ではなく、大事なことはアートの体験をすることなのです。そのためには、継続していくことが重要で、まさに“継続は力なり”です。

本来、教育とは遅効性なものです。漢字や、公式はいくつになっても覚えられますが、子どもの時のアート体験で得るものを、残念ながら大人になってから得ることは出来ません。“急がば回れ”です。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

緒方　紀子　（美術家）

今回の『君が主役だ！すてきな「アート」体験』の講師を努めさせていただいて、ちょっとしたきっかけ（誘導）を与えてあげれば、それぞれの個性を発揮して創造性豊かな作品が出来上がっていくことに改めて感動しました。

子どもたちの創造性や発想力は、新鮮で固定観念に縛られない開放的でのびのびとした素晴らしい可能性を秘めていることを感じました。

ぜひ、この感受性豊かな年代に文化・芸術を通して人間的情緒を育てていただきたいと思います。勉強だけでの点数、偏差値だけに子どもの価値を置くのではなく、もっと広く人間の価値を評価していただきたいと思います。

その道のプロになるためには、勉強と同様に継続的な練習や集中力、根気などが必要になってきますし、文化・芸術の分野においては、創造性や表現力、発想力なども養っていける要素を含んでいると思います。受身ではなく、自分から進んで考え、作り上げていく作業というものは子どもの成長にとって自主性を育てていく大事な要素であると考えます。

学校の勉強で自分を生かしていける子どもたちは、その分野で力を発揮していけば良いですし、そういう場面で自分をなかなか生かせない子どもたちは、基礎的学力は必要だと思いますが、学校の勉強以外でも別の世界でも限りなく無制限に自分を生かして伸ばしていける場所や自分が役に立てる分野が必ずあることに気付いてもらいたいと思います。

人間の可能性は、永遠であり、自分の将来に希望を持ち、それぞれに合った「夢」を実現できるように努力してもらいたいと思います。

そういう意味では、学校が終わって放課後の時間にいろんな分野の専門家の大人の方々に出会って、いろんな体験をすることは大切だと思います。そして、どの分野の世界や仕事も比べられることなく、それぞれが素晴らしい面を持っており、その道のプロになれるように頑張ってほしいと思います。

今の時代は、昔と比べて料理のシェフやパティシエ、水泳や野球などのスポーツ選手、画家や音楽家やバレエなどの芸術家や建築家など世界に通用して活躍されている方々が多くいらっしゃると思います。周りにいる大人たちが、子どもたちに「自分にふさわしいものは何か」、みつけやすい環境づくりや選択肢の幅をより多く示していける機会を与えていくことが大事になってくると思います。

子どもたちの入り口の部分をたくさん増やしてあげて、いろんな体験を通して興味を持たせたり、「これが好きだ」とか「楽しい」と感じてもらえるようにすることによって子どもたちのこれからの生き方の参考になったり、子どもたち自身が充実した日々を送れるようになってほしいと思います。

また、それぞれの分野においても小学生の時から体験してもらったことで、その世界のあり様を理解してもらえるチャンスでもあり、幅広い人材の育成にもつながると思います。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

みのわ　そうへい　（振付家・ダンサー）

私は、子どもたちに「コンテンポラリーダンス」の体験を継続的に提供しました。他のアート体験との違いは、「継続」して子どもたちにアート体験を提供できた点にあると思い、「１つのことを継続していくことの必要性、重要性」について意見を述べさせていただきます。

アートを提供する講師は、おそらく１回より複数回の体験を提供したいと思っています。どんなジャンルであれ、子どもたちに感じて欲しいことや伝えたいことは短時間では難しいからです。

目を転じて、子どもたちはどのように感じているでしょうか。主観的かもしれませんが、私の見る限り、全 10 回のコンテンポラリーダンス体験から子どもたちの“変化”を見ることができました。

1 回のみの体験では、ダンスの「楽しさ」を味わってもらうことはできても、「ダンスって自由なんだ」、「ダンスって何でもありなんだ」「ダンスって正解がないんだ（全てが正解！）」「人と違う発見が面白いんだ」等の「学び」を得ることは困難です。私が感じた子どもたちの“変化”は、これらの「学び」を得た結果であると思います。「正解（答え）は一つ」の世界（特に学校）で生きている子どもたちに、ダンスの「何でもあり」を感じてもらうことは、大変意義深いと考えます。

最後に、体験を「体験」だけに終わらせるのではなく、表現の機会（発表）を設定できたら、子どもたちの「学び」をさらに深めることができたと思います。自身の反省点として、今後に活かして生きたいと思います。

貴重な機会をいただけたことを感謝しております。

ありがとうございました。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

芥川　仁　（写真家）

生活空間として見慣れている街を、写真を撮ることで再発見しようという試みは、写真撮影の本質に迫る良い企画であった。

見慣れた街へ、子どもたちがカメラを持って入り込めば、好奇心に満ちた子どもたちの潜在意識を目覚めさせ、街は輝き、魅力ある空間に早変わりする。同じ時間帯に同じ空間を歩きながら、子どもたちが撮影してきた被写体は、変化に富んでいた。

メカ好きの少年は、自転車やバイクばかりを写してきた。建物の壁に書かれた落書きに集中した少年もいた。女の子たちの写真には、ビルの谷間から見える青い空やショーウインドウの中で光を放つ装身具、植木鉢の花にも目が向いていた。どの写真も、子どもたちの世代だからこそ見える街の姿だ。ただ、街を歩く人々へレンズを向けた写真はほとんどなかった。これは、見知らぬ者同士のコミュニケーションが稀薄になっている現代を反映しているのかも知れない。

撮影した写真を街の通りで展示するため、写真をボードに貼る作業をしている時、私はもう一度、驚くことになった。子どもたちから写真の廻りに絵を描いてもよいかと提案があった時、私は、模様を付ける程度を想像していた。しかし、クレヨンを手に子どもたちが絵を描き始めた時、彼らの頭の中にある世界に気付かされた。子どもたちは、一枚一枚の写真を街の断片として把握し、写真の廻りに街の空間を描き始めたのだ。写真を一枚の表現として見るのではなく、街を表現するためのパーツとして位置付けられていた。写真に対するこの意識こそが、今回の企画の基本コンセプトではなかったのかと、子どもたちに教えられる思いだった。

一度輝いて見えた街は、大人になっても街を訪ねる度に輝きを再現することができる。つまり、写真を撮ることで輝いて見えた街の記録と記憶こそが、この企画に参加した子どもたちへの最大の贈り物になったはずである。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

村上　由哲　（津軽三味線）

今回、素敵なアート体験で「三味線」を指導させていただきましたが、小学校１年生の子どもさんから６年生まで、様々な地域から集まられ、楽しく体験されました。

初対面、初体験ということもあり、やや緊張感の漂う中でのスタートでしたが、体験を通じて、まるで氷が溶けていくように、子どもたちの様子が明るく変化。

仲間を作り、音を楽しみ、三味線を演奏し、自信をつけていく子どもたちの姿を見守りながら、子ども文化センターの皆さんや保護者の方々と感動的な時間を、共に過ごさせていただきました。

最近の子どもは、じっと座っていることが出来なくなったと、問題提起されることが多々ありますが、かつては、兄弟や近所の方々、また自然とのふれあいの中から身に付いていた「ルールを守る」というスキルを身につける機会が無くなってしまったことが、大きな原因であると考えられます。

学校教育だけではなく、地域での学びは、今や特に重要です。

参加者の皆さんが、どのような経路で、このような取り組みにまず興味を持ち、申し込みをし、そしてアート体験をされたのか、非常に興味が持たれるところです。

単に「三味線を弾く」というだけでなく、まずは「興味を持つこと」「トライすること」。

このことは、「一歩踏みだすこと」「あきらめないこと」という「生き方」につながるのです。

継続してこのようなチャンスを与え続けることが、「人作り」「社会作り」の基礎になると考えております。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

保護者の声

これまで、『君が主役だ！すてきな「アート」体験』にいろいろと参加させていただいてます。その中から何点か感想を書きたいと思います。

まず、ゴスペルです。ゴスペルは娘が歌が好きなので参加しました。参加してすぐに本場の NY ゴスペルの人達と一緒にステージに立って歌うことが出来たことは、私もですが娘も二度とないことでしょう。帰りの車の中でまたこういうコンサートがあったら見たいと言っていました。

クリスマスコンサートなど楽しかったです。今でも家の中で妹と時々歌っています。

アンブレラ・あんぶれらでは、傘に絵をかいていました。傘の内側から街並みを書くこととか私達からは考えすらおよばず、こんな書き方もあるのかと感激しました。

津軽三味線は 2 回参加しました。これは、私のやらせてみたいことでした。娘自身数日前まであまり興味はなく、キャンセルしようかなと言っていたのですが、まず今の生活の中で三味線に触れることはないので参加させました。すると、以前に民謡を習っていたこともあり自然に三味線に入っていったみたいです。迎えに行った時には習いたいといいだしていました。私もビックリでした。

その数日後、まず無料体験にと申し込みに行って来ました。無料体験だけと私は思っていたのですが、本人は習う気マンマンでその後も本人の意思は強く、とうとう三味線を習う事になりました。

私達、親もいろいろと子どもにさせてみようと思っていても、なかなかお金もかかってくるのと、「辞めてもね～」と思うと視野が狭くなりあまり体験することもできませんでした。みやざき子ども文化センターの『君が主役だ！すてきな「アート」体験』は、普段体験することのできない事を広く浅く経験できる場だとすごく思いました。

いろいろな物に触れ、体験することのすばらしさ、その中から自分にあった物に出会えばいいなと思っています。娘の場合は、津軽三味線だったのでしょう。

また、これから先これまでの体験が子どもたちにとってきっときっかけになることでしょう。

これからもまたいろいろなアート体験には参加させていただきます。

梅野　恵美　（小学 4 年生　保護者）

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

日頃は、たいへんお世話になっております。

長い間、大切なウクレレを貸して頂き、有難うございました。

あれから息子は、教えていただいたクリスマスソングを練習し、ホームパーティーで披露することができました。拙い演奏ではありましたが、皆に「いつの間に？」と驚かれ、とても嬉しそうでした。

もし、お借りしてなければ、あれっきりになっていたと思います。その後は、あまり練習に励んでいない様子ですが、私や夫の方が、ウクレレを欲しくなってしまい、何度か楽器店をのぞいていました。「いつか余裕が出来たら、始めたいね」と話しています。

素敵な体験をさせて頂き、本当にありがとうございました。

永田　秀美（小学６年生　保護者）

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

娘が少々恥ずかしがり屋だったので、楽しく歌いながら大きな声が出せるようになればいいと思いゴスペルに参加させました。

最初のほうは、練習というよりもみんなと集まるのが楽しいって感じでどうなる事やらと思っていましたが、「Sing,Harlem,Sing ！」のステージに立ってお客様の前で歌うことになり娘に変化が見えてきました。

練習の時も「私、小さいから先生のすぐ後ろにいないと足の動きがわからないもん。」と一番前に陣取り、すごく真剣な顔で練習するようになってきました。

その後も「クリスマスコンサート」や街中でのコンサートと参加する度に自信が付いていったようです。

先日、小学校での学習発表会でも歌と本の朗読を誰よりも大きな口をあけ、大きな声を出していて、自信たっぷりな発表に驚かされ、「だってゴスペル習っているのクラスで私だけだもん！」と自慢気に私に話しました。

本当に娘の成長を実感しております。これからもいろんな事にチャレンジさせていきたいと思っております。

菊竹　栄子（小学１年生　保護者）

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

アート体験事業　全日程

9月

日	内　容	講　師	ジャンル
１０日（水）	子どもゴズペル隊　①	岩切　詩子	音楽（ゴスペル）
１３日（土）	パーカションに挑戦	上之園　謙二・川﨑　圭子	音楽（パーカッション）
２４日（水）	君もデザイナーになろう	金丸　二夫	芸術（デザイン）
２５日（木）	キッズダンサー　①	みのわ　そうへい	舞踊（コンテンポラリーダンス）
２７日（土）	子どもゴズペル隊　②	岩切　詩子	音楽（ゴスペル）

１０月

日	内　容	講　師	場　所
４日（土）	子どもゴズペル隊　③	岩切　詩子	音楽（ゴスペル）
８日（水）	子どもゴズペル隊　④	岩切　詩子	音楽（ゴスペル）
９日（木）	いのちの話	藤田　美和	保健福祉
１０日（金）	ウクレレに挑戦	神崎　充・道本　晋一	音楽（ウクレレ）
１０日（金）	わらべうたとてあそび	永友　悠貴子	保健福祉
１４日（火）	あかちゃんと出会う	保育園	保健福祉
２２日（水）	子どもゴズペル隊　⑤	岩切　詩子	音楽（ゴスペル）
２３日（木）	キッズダンサー　②	みのわ　そうへい	舞踊（コンテンポラリーダンス）
２５日（土）	君もデザイナーになろう	金丸　二夫	芸術（デザイン）
２７日（月）	子どもゴズペル隊　⑥	岩切　詩子	音楽（ゴスペル）
３０日（木）	キッズダンサー　③	みのわ　そうへい	舞踊（コンテンポラリーダンス）

１１月

日	内　容	講　師	場　所
１日（土）	子どもゴズペル隊　⑦	岩切　詩子	音楽（ゴスペル）
１日（土）	パーカッションに挑戦	上之園　謙二・川﨑　圭子	音楽（パーカション）
１０日（月）	落語を体験してみよう！！	桂　歌春	芸能（落語）
１０日（月）～２４日（月）	成果発表：まちかどギャラリー（デザイン）		
１２日（水）	子どもゴズペル隊　⑧	岩切　詩子	音楽（ゴスペル）
１３日（木）	キッズダンサー　④	みのわ　そうへい	舞踊（コンテンポラリーダンス）
２０日（木）	コンテンポラリーダンス公演　鑑賞	みのわ　そうへい	
２２日（土）	木工教室「組木・来年の干支“牛”をつくろう」	川上　宰	芸術（木工組木）
２２日（土）	写真家になって私たちの“まち”を発見しよう！　①	芥川　仁	芸術（写真）
２２日（土）	写真家になって私たちの“まち”を発見しよう！　②	芥川　仁	芸術（写真）
２８日（金）	写真家になって私たちの“まち”を発見しよう！　③	芥川　仁	芸術（写真）
２９日（土）	子どもゴズペル隊　⑨	岩切　詩子	音楽（ゴスペル）
２９日（土）	楽しいクラシック	土田　浩	音楽（クラシック）

12月

日	内　　容	講　　師	場　　所
1日（月）～14日（日）	成果発表：まちかどギャラリー（デザイン）		
3日（水）	模造紙に大きな絵を描こう	緒方　紀子	美術（コラージュ）
3日（水）	子どもゴズペル隊　⑩	岩切　詩子	音楽（ゴスペル）
6日（土）	成果発表：Miyazaki Art Festival 2008（ゴスペル）		
7日（日）	木の博士入門　①	井上　龍一	環境
11日（木）	キッズダンサー　⑤	みのわ　そうへい	舞踊（コンテンポラリーダンス）
13日（土）	写真家になって私たちの“まち”を発見しよう！　④	芥川　仁	芸術（写真）
14日（日）	木の博士入門　②	井上　龍一	環境
18日（木）	キッズダンサー　⑥	みのわ　そうへい	舞踊（コンテンポラリーダンス）
19日（金）	子どもゴズペル隊　⑪	岩切　詩子	音楽（ゴスペル）
20日（土）	ウクレレに挑戦	神崎　充・道本　晋一	音楽（ウクレレ）
21日（日）	成果発表:まちなかクリスマスコンサート（ゴスペル）		
21日（日）	成果発表：まちなかギャラリー（写真）		

1月

日	内　　容	講　　師	場　　所
15日（木）	キッズダンサー　⑦	みのわ　そうへい	舞踊（コンテンポラリーダンス）
17日（土）	アンブレラ・あんぶれら・傘に絵を描く	上口　将生	美術（造型）
21日（水）	等身大の自分を作ってみよう！	緒方　紀子	美術（コラージュ）
22日（木）	キッズダンサー　⑧	みのわ　そうへい	舞踊（コンテンポラリーダンス）
24日（土）	木工教室	川上　宰	芸術（木工組木）
31日（土）	津軽三味線　～心で感じよう、日本の音～	村上三絃道（村上由哲）	音楽（津軽三味線）

2月

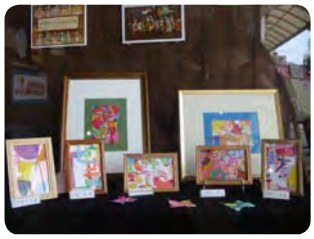
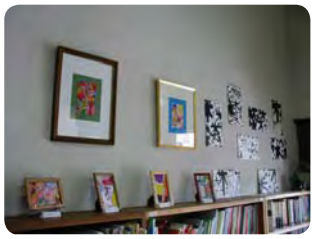
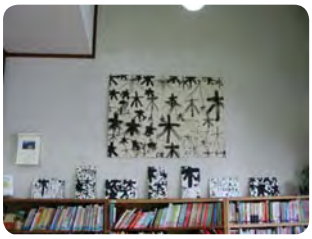
日	内　　容	講　　師	場　　所
7日（土）	飛び出す絵本を作ろう	後藤　麻夫	美術（造型）
14日（土）	津軽三味線　～心で感じよう、日本の音～	村上三絃道（村上由哲）	音楽（津軽三味線）
19日（木）	キッズダンサー　⑨	みのわ　そうへい	舞踊（コンテンポラリーダンス）
21日（土）	アナウンサーになろう	細田　史雄	メディア（アナウンサー）
26日（木）	キッズダンサー　⑩	みのわ　そうへい	舞踊（コンテンポラリーダンス）
27日（金）	緑のアート・盆栽	野元　大作	園芸（盆栽）
28日（土）	火で絵を描こう！	黒木　郁朝	美術（造型）

3月

日	内　　容	講　　師	場　　所
15日（日）	成果発表：まちなかギャラリー（アンブレラ、写真）		

成　果　発　表

まちかどギャラリー

クリスマスコンサート

まちなかギャラリー

事業経緯

【目的】

放課後の子どもの居場所において、子どもたちの社会性、感性を養い視野を広げるために、ものづくりや体験的な学習活動を支援する。

文化芸術を中心にしたプログラムを作り、多様な分野の人材との交流と、だれでもいつでも参加でき、継続できる内容にし創造性豊かな子ども期を過せるようにする。

【事業のテーマ】

文化芸術分野に秀でた地域の人材を講師として登録し、アートを通した体験プログラム『君が主役だ！すてきな「アート」体験』として放課後子ども教室の学習体験事業を行う。

【事業内容】

放課後の居場所での体験活動プログラム（文化芸術を中心とした）を実施。

講座回数　　５１回（平成２０年９月１０日～平成２１年３月１５日）

講座内容　　音楽・舞踊・造型・写真・デザイン・邦楽他

【事業の効果・成果】

芸術文化に秀でたおとなたちとの出会いは、子どもたちにとって本物に出会い、意欲・関心を高める楽しい場であった。また、講師にとっても子どもとの出会いは子どもたちの様子を知り、地域への関心が生まれ、子どもへの眼差しへと変わっていった事業であった。

講座を実施するにあたり、地域の資源である商店街やライブハウス、ホテル、時計店、文化ホール、木材店などを会場として使用したことが、保護者や子どもにとって地域の支援者が見える良い機会になったという声が多数あった。

子どもたちが制作した作品の展示や練習した成果についてキッズギャラリーの開催やショーウインドーでの展示、まちかどコンサートへの出演など発表する機会をつくった。またゴスペルの体験では本場ニューヨークからきたゴスペル公演にゲストとして出演し、本物に触れた事で子どもたちの声の出し方など姿勢に変化が見られるようになった。ゴスペルやダンスなど継続した講座では、子どもたちの様子を見ながら内容を変えて行き成長や変化を見る事ができた。

モデル事業として実施した『君が主役だ！すてきな「アート」体験』という芸術文化を中心にした体験は、継続した取り組みが重要であると思う。学校現場では美術、音楽などの専門の教師が不在の所も出てきており豊かな体験と知育のバランスが必要となっている。

キャリアデザインの視点からも専門家との出会いは多様な生き方を学ぶ場であり、自分の得意分野を見つける場でもあった。

次年度について、保護者また講師からも実施についての要望が多く寄せられており、豊富な講座内容から継続した事業が望まれている。

はじめてのアナウンサー

一年　ねのき　もえ

きょうは、ＮＨＫでアナウンサーのべんきょうをしました。

アナウンサーで文しょうをよんだときはどきどきしました。

カメラや、かずをかぞえるときはたのしかったです。

またいきたいです。

うみにいったよ

一年　おくの　ひな

土よう日、子どもセンターのイベントにさんかしました。さいしょにすなはまにかいじゅうさんのえをかきました。わたしは、ほいくえんでおなじだったこゆきさんと、こゆきさんのともだちの子ときょうりゅうのあたまをかきました。そしてさいごに火でそのえをなぞりました。そして上からそのえをみてみました。きれいだったです。

わたしは、あのときにおいもをもってきてたらとおもいました。つぎは、やきいもがしたいです。

海へ火をつかってあそんだ

二年　いのうえ　ふう

きょう、きさきはまでえほんのさとのそんちょうさんのくろぎいくともさんとあそびました。「わたしはいくときに火はこわいなー。」と思っていましたがたのしみにしていました。

さいしょに、すなはまに大きなかいぶつをかきました。つぎにじぶんのすきなところにもようをかいたりしました。わたしは足にして水たまもようをかきました。

それから、すきな木をえらんでその木のさきにタオルをいっぱいつけてじぶんのもようをかいたりしたところにもう一つのさきっぽをじめんにさしこみました。

さいごに、火をつけました。火がぼうぼうもえていてまるでたいようの光があたっているようにきれいでした。また、こんなたのしい日がくるといいなーと思いました。

平成 20 年度　文部科学省委託 「総合的な放課後対策推進のための調査研究」
放課後活動支援モデル事業

君が主役だ！すてきな「アート」体験　報告書

発行：平成 21 年 3 月
主催：特定非営利活動法人　みやざき子ども文化センター
〒８８０－０００１　宮崎市橘通西２丁目５－２０
TEL/0985-61-7590　FAX/0985-61-3635
http://www.kodomo-bunka.org
E-mail:center@kodomo-bunka.org